



学校だより

2 月 号

令和5年1月31日

横浜市立南小学校

校長 薄田 秀明

自分の身は自分で守る

ふくこうちょう あいだ だいすけ
副校長 会田 大助

1月14日、本校体育館で行われた『南小学校地域防災拠点避難所開設運営訓練』に、学校職員として管理職と教員の6名で参加しました。毎年行われていた地域主催の防災訓練ですが、一昨年、昨年と計画をされていたものの、ちょうどこの時期に新型コロナウイルス感染症が拡大して2年連続で中止となっていました。今年は、そういった感染拡大の影響を受けず、予定通り実施されました。

地域の防災拠点運営委員の方達の指示・進行のもと、避難者の受入れ作業、防災拠点開設方法やペット避難についてのDVD視聴、段ボールベッドや間仕切り組立などを行っていました。避難場所となる体育館を隣の距離等も考慮して間仕切りすると、多くの方を受け入れることができないことも分かりました。

訓練の中で、参加されていた方から、体育館のスペースでは多くの避難者を受け入れることができないことへの不安の声がありました。学校は、市からも感染症対策のためできるだけ避難スペースの提供を、と依頼を受けており、避難場所が体育館で足りない事態についても考えています。ただ学校は、避難所であっても本来の役割である「学校」の再開に向けて進めていくことも求められています。先の新型コロナによる学校休校では、子どもも預け先がない家庭が仕事に出勤できなくなり、社会機能に影響が出ました。災害発生後は、学校機能を戻していくことも社会的に重要です。そのため、制限なく教室を避難場所として提供することはできません。

現在の地域避難は、訓練で担当の方が仰っていた通り、やはり「避難所への避難」ではなく「自宅避難」ができる準備を進めていくべきだと思われました。まずは「自分の身は自分で守る(自助)」の考えです。日頃の学校でも、この「自分の身は自分で守る」という指導の下、避難訓練や防災教育を進めています。本校では、休み時間のような近くに教師がいない場面の避難訓練や、児童に予告せずに行う避難訓練もあります。

東日本大震災当時、私は3年生の担任でした。授業中で、金魚の水槽がこぼれるくらいにザブンザブンと波打っていたのを覚えています。大変だったあの日を思い出すのは辛いことですが、普段から「もしも」を考えて備えておくことも、大切なことです。「自分の身は自分で守れる」子ども達に育ってもらえるよう、これからも努めていきます。